

第1回 宇都宮市東部地域渋滞対策協議会

議事概要

- 1 日時
令和3(2021)年10月29日(金) 13:30~14:30
- 2 場所
栃木県庁 昭和館 多目的室1
- 3 出席者
別紙「出席者名簿」のとおり
※議事に先立ち、「宇都宮市東部地域渋滞対策協議会」規約(案)を確認し、長田哲平委員を協議会会長に選出した。また、井上委員、高橋委員を協議会監事に選出した。
- 4 議事
(1) 社会実験の内容について
(2) 今後の進め方について
- 5 議事概要
 - ・事務局から社会実験の内容について説明。その後、質疑応答を行った。
 - ・今後の進め方について、確認された。
- 6 主な質疑
 - 仲谷委員
 - ・本社会実験の目的として、う回誘導等に関する対策メニューを検討することになるが、目的の範囲として、AI・IoT使ったどのようなことができるかという点にフォーカスしていくのか、それとも幅広く渋滞対策に係る効果を検証していくのか。
(事務局)・まずはAI・IoTを活用して有効な渋滞対策の手法を検討していきたいと考えている。
 - ・西進車線は1車線となり、工事による交通規制形態は刻々と変わっていく中で、どのように誘導していけば良いかが課題となるが、どの程度柔軟に信号機で対応が可能になるか。
(國見氏)・信号機の種別として一般・管制の2種類がある。鬼怒通りは現状では一般信号であるが、LR T開通後は管制信号となり、交通状況に応じて、信号現示の時間は柔軟に変更できるようになる。
 - ・今回の実験は道路の規制状況や渋滞対策の部分が変わっていくので、実験の目標設定が難しい部分はあるが、どこを目指してやっていくのか。
(事務局)・AI画像解析による交通量・渋滞状況の把握やリアルタイムでのう回誘導、さらに、蓄積したデータを活用して渋滞予測モデルの構築まで進めたいと考えている。あわせて、鬼怒通りのみならず、国道123号等の周辺道路の状況も把握していきたい。
 - ・う回誘導がメインの施策になると思うが、設定した地点間でどのくらいの人がう回したのか分析は可能なのか。

(福森委員) ・宇都宮市東部地域は通勤の関係からホンダ車の利用が多いことから、施策のビフォー・アフターの比率からう回した割合を算出することは可能。

・う回分析に当たっては、細街路への流入といった望ましくないう回も含めて把握できると良い。

(事務局) ・交通分析ではどのレベルの道路まで把握可能になるのか。

(福森委員) ・技術的にはすべての道路を対象にできるが、基本的にはソフト上でリンクを組んでいるところになる。本社会実験において、生活道路については推測になると考えている。

○國見氏 (松尾委員代理)

・県警においてもLRT関連で交通信号機の設置に関わっており、信号の改良により渋滞緩和を行っていかねばならないと考えている。

・信号現示の時間変更等で協力できる部分はあり、今回の取組は警察にとってもプラスになると考えているので、信号機に関する情報提供についてはできるだけ要望に応じていきたいと考えている。

○長田会長

・本社会実験では、交通状況をモニタリングすることがまずは一つの目的となる。

・う回誘導の表示板の設置場所について地権者等の同意は得ているか。

(事務局) ・自動車運転者の視認性等を考慮し、道路区域内の設置を予定している。

—以上—